

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤に据え自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会で活躍できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「文武両道」と「組織で勝つ」を経営方針とし、人権尊重と生命尊重を柱とした教育実践により、自らの生活を豊かにする活力ある生徒を育成する学校
○児童・生徒像	「磨く」、「挑む」、「思いやる」の生徒行動指針の下、自分のよさや特性を理解し、新たに定めた目標を実現しようと努力する、自他の違いを認めそれを尊重する心をもった生徒
○教師像	仕事への責任感と使命感あふれる気持ちを持ち、組織を大切にし、組織で職務に当たり、一人一人の生徒に寄り添い、「やさしく、根気強く」指導できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

生活指導の徹底が基盤となり、けじめと明るさが両立した学校生活である。生徒行動指針「磨く」「挑む」「思いやる」が生徒・保護者・地域社会に浸透し、学習活動や学校行事に熱心に取り組む姿勢が見られる。

(1) 生徒について

目的意識をもち、明朗快活な生徒が多い。しかし、一部に人間関係づくりができないなど学校生活に馴染むことができずに不登校となる生徒や問題行動等で教育相談を受ける生徒もいる。

(2) 教職員について

公務員としての職務を理解し、強い使命感をもって、熱心に生徒指導や部活動指導に当たる教職員が多くいる。しかし、ここ数年で若手教員が増加するなど、年齢のアンバランスがある。

(3) 保護者・地域社会について

多くの保護者は、本校の教育活動を理解し連携した指導を行っている。しかし、生徒の基本的な生活習慣が確立されていないなどの課題もみられる。地域は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、教育の向上を図っている。特に、PTAはもとより足立九中後援会や「おやじ・おふくろの会」は、教育活動推進で物心両面の支えとなっている。

2 成果と課題

(1) 成果

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、臨時休業期間があり授業時数を確保する必要があった。リモートによる授業や教育計画を見直すなど、柔軟な対応を行った結果、ほぼ例年通りの授業時数と内容を実施することができた。また、様々な学校行事については、時期や形式をかえることでほぼ実施することができた。

(2) 課題

ア 学力調査結果と生徒の自己評価の分析により、基礎的・基本的内容の定着、意欲を高める指導の充実、学習習慣の確立が課題であり、授業力の向上と家庭との連携により学力向上を図っていく。また、ICT環境の充実に伴う指導方法の工夫・改善などの教員の指導力の向上と生徒のリテラシーや活用力の向上を図っていく。さらに、特別支援教室の設置を生かした学習習慣の確立を図る。

イ 豊かな心の育成については、学校行事等の自主的な運営や社会貢献活動の発展を検討するとともに、道徳科の充実等による思いやりの心や自律の態度を養い、生徒の自尊感情や自己肯定感を一層高めていくことが課題である。また、特別支援教室を活用し、ソーシャルスキルを身に付ける活動等を強化する。

ウ 運動習慣の確立など、活力ある生徒の育成や体力向上に関する取組を一層推進する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	健全育成：思いやりを中心とした豊かな心の涵養	○	○	○	○	○
3	体力向上：自らの生活を豊かにする活力ある生徒の育成	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学習内容の定着と自ら主体的に学ぶ力の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・年度末到達度 確認テスト正答率60% ・令和4年度区調査 通過率65% 				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	基礎学力の 定着	国語、社会、 数学、理科、 英語	1 毎日 2 年3回	1 朝学習・朝読書 2 授業改善と学習コンテスト 導入・振り返り、ドリル	・朝学習等 ・学習コン	学習コン3回 基礎学力80%	自己評価の際に記入		

2 継続	授業改善の 充実	全教科	1 年4回 2 年2回 3 週1回	1 校内研修（生徒理解、 ICT等） 2 研究授業 全教科で実施 （ICT活用含む） 3 情報交流・授業観察 コミュニケーション拡大 など	1 校内研修 2 研究授業 協議まとめ 3 授業観察	学習意欲を高める 指導の実施 80% 研修等の機会 10回 授業観察等
3 継続	学習カウ ンセリン グの推 進	全教科	1 毎日 いつでも 2 年2回 程度ほか	1 個別カウンセリング ・キャリア教育 ・勉強の仕方や学習習慣 2 三者面談や進路相談等	1 全生徒 10回 悩み・進路 2 面談等 実施回数	学校生活満足 88.0% 学習への努力 82% 三者面談等の実施 2回以上
4 継続	補充的学 習の充 実	数学、英語	1 年28回 2 毎日 3 年間を 通じて	1 補充学習 2 AIドリルを活用した朝学習 3 関係機関との連携強化 学習塾、チャレンジ学習な ど	1 実施状況 確認調査 2 実施状況 確認調査 3 情報交流 学力調査	基礎学力の定着指 導 80%
5 継続	主体的な学 習機会 の提供	国語、社会、 数学、理科、 英語	1 定期的 3回程度 2 検定等	1 教え合い教室 生徒が問題作成・配布 2 各種検定へのチャレンジ 推進 ・学校における検定試験の推 進	1 実施度、コン テスト等 2 検定実施 受検者数	各教科の学習コン テスト等で 80% 英・漢・数の受検 者数 50%
6 継続	学習習慣 の確立	全教科	1 毎日 2 月1回 以上	1 「わかる・できる」授業の 工夫と家庭学習ノートの工 夫 2 各種たより、保護者会及び 面談等の充実 3 AIドリルを活用した家庭学 習習慣定着	1 自己評価 2 自己評価 保護者情報 関係者評価	教員の自己評価 80% 実施回数等 家庭学習1時間以 上 60%
7 継続	ICT機器を 活用した 授業改 善	全教科	該当教科 で週1回 以上活用	1 タブレットに搭載された 授業支援ソフトの活用 2 ICT機器を活用し生徒が興 味関心を抱く授業の工夫 3 AIドリルを活用した授業 の工夫	1 指導案検討 2 研究授業 3 授業観察	学習意欲を高める 指導の実施 80%

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－２		健全育成：思いやりを中心とした豊かな心の涵養			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりなど豊かな心の涵養による自己肯定感の向上		生徒自己評価で自己肯定感75% 人のためになる活動80%	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育の充実	学校生活満足度85% 道徳性の涵養 挨拶、礼儀・マナー80%	「考える道徳・議論する」道徳授業及び道徳授業地区公開講座等の充実、SDGs教育の充実 意識調査	自己評価の際に記入		
社会貢献活動の推進	人のためになる活動の実践80%	「夢のひまわりロード計画」の実施 地域コミュニティーの活性化、意識調査、参加人数 SDGs教育の充実			

重点的な取組事項－３		体力向上：自らの生活を豊かにする活力ある生徒の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力を高め、活力ある生活の実践力の向上		学校生活に満足90% 体力の高まり感80% 運動・スポーツへの関心80%	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

体力向上	体力の高まり感 80% 運動・スポーツ等への関心 80%	体力調査結果の分析と個の課題に応じた体力向上の取組 運動習慣の確立、関係機関との連携	自己評価の際に記入
部活動等への積極的参加	部活動等加入率 80% 部活動等で 頑張り 90%	部活動の推進 部活動の教育的価値の理解、 礼儀・マナー、リーダー育成	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入